

Weekly Report



名古屋アイリスロータリークラブ

例会日 水曜日13:00～14:00
 例会場 ANAクラウンプラザ
 グランコートホテル名古屋
 承認 2013年6月18日

会長 藤谷 猛
 幹事 深見 礼子
 公共イメージ
 向上 岩崎 幸弘



ロータリー：
変化をもたらす

2017～2018年度名古屋アイリスRCのテーマ

共に活動し、共に奉仕し、
共に頑張るアイリス

●お問い合わせ：office@nagoya-iris-rc.jp

●公式WEBサイト：http://www.nagoya-iris-rc.jp

第222回 例会

2018年3月14日 13:00

- 司 会：須賀祐介 会員
- 斉 唱：我らのなりわい
- 出席報告：出席者数30名 / 会員数 43名
出席率 69.7%
前々回(220回)修正出席率90.7%
- ゲスト：名古屋北 RC
当クラブ特別代表 浦野三男様
- ビジター：

ニコボックス

- 一日一日と桜の花が芽を出し始めました。元気で頑張りましょう！（浦野三男特別代表）
 - 3月27日は6RC 合同例会です。これは通常の例会ですので、多数のご参加をお願いいたします。（藤谷会長）
 - 片桐幹事エレクトのお店が当ホテルの左前に「マリ・カフェ」をオープンしたそうです。本日はオープン記念サービスデーです。時間のある方は今日一緒に出かけましょう。（安井戦略委員長）
 - 親を観れば子がわかる。子を観れば親がわかる。まるでフランスのようですね。やっパリか！春到来です。季節の変わり目です。どうか皆さんお体ご自愛ください。全然話が変わりますが、マリカフェがオープンとの風の便りで聞きました。まだアイリスの皆様にはご招待状が届いていないようですが・・・（櫻井直前会長）
- ※櫻井さんには多額のニコをいただきました。
ありがとうございました！

会長挨拶

みなさん、こんにちは。

3月も半ばになり随分に温かくなりましたね。少しずつ春に向かっていくようです。いよいよ桜の季節が、そこまで来ているようです。

この日曜日には、市内25ロータリークラブの社会奉仕活動として東山植物園に桜の回廊を造ろうというプロジェクトが行われました。アイリスからの参加

は私と深見幹事、加藤青少年奉仕副委員長の3人でした。このプロジェクトは東山植物園に桜を植樹し、何年かの時を経て桜の回廊を造ろうというものです。今年は30本植樹し、来年は70本の植樹を



する予定になっています。神野ガバナー、本多ガバナー補佐、25RCの会長幹事、ロータリーアクトの関係者など多数の方々で30本の桜を植樹致しました。当日の様子はCBCテレビのニュースでも放送されましたのでご覧になられた方もあるかもしれませんね。

こんな桜を植えて何になるのだと思われる方もおられる事と思います。まあ正直、多いかもしれませんが。私たちアイリスは、これまで名古屋大学付属病院の小児がん病棟の子供さんたちや、その病気に一生懸命挑んでおられる名古屋小児がん基金の方々には社会奉仕活動を続けてきました。それらと比べると桜の苗木は、直接人々に作用するものではありません。その為か、あまり意義を感じる方が少ないように感じます。

しかし、桜の花を見てムカついたり、嫌悪感を覚える方は皆無でしょう。それよりも長い冬が終わり、春を迎え、桜を見たとき言葉では表現できない気持ちがこみ上げて来るものではありませんか。私たち日本人のDNAのどこかに桜の美しさと癒しを感じる受容体が埋め込まれているように思います。

私は、桜の季節になると自分の人生の中で、桜を見られるのは、あと何回あるのだろうと毎回思います。一年の中の一瞬です。10年生きても10回です。20年生きても20回です。私は桜を見ると人生の時間を数えてしまいます。人生の限られた時間を大切に使い、一年間、使った心を洗い、新たな出発をす

るためにも桜は大切な存在です。

桜をみるとワクワクした希望に満ちた気持ちがあふれてくるのは私だけでしょうか。

私の父は既に他界しておりますが、人生の最後を病院の病室で終えました。脳梗塞により、身体も動かなくなり意識も混濁し、理解ができない日が続きました。しかし、そんなある日、病室の外で満開になって咲いている桜を見て、「桜かあ」と一言つぶやきました。一瞬、正気に戻ったように感じました。桜は本当に人の心と同化しているように思ったのは、この時です。

東山植物園の桜が回廊となり、訪れる人々の心を癒してくれるのは随分と先の事ではあると思います。しかし、必ず誰かの人生に力を与え、生きる方向をかえるかもしれません。

社会に貢献する社会奉仕ですが、色々な形があり、いろいろな役目を持っています。この桜の回廊の様に人生に一瞬だけ力を与えるような奉仕もあるのだと知りました。

みなさんから、ほんの少しだけ寄付を頂き植樹した桜が、これからどんな人を癒し、未来を創るのかと考えると少しだけワクワクしてくるような気がしませんか。

ここにも春が来ているのかもしれないね。

会長挨拶を終わります。

(原文のまま掲載)

■ 幹事報告

新年度の青少年奉仕委員長が、鬼頭会員から安井嗣博会員に変更となりました。

■ 委員会報告

■ 卓話

安井嗣博会員 テーマ 「自治と統治」

私は自己紹介を含めると3度目の卓話となります。私、使えるコネも全くないと、出来れば偉い先生よりアイリスの方の卓話が増えた方が楽しいクラブになるのではないかと自分でやる事としました。ついでに私はパワーポイントを2日前から初めて使いましたので、大変殺風景な内容になっておりますので予めご容赦願います。さてテーマは「自治と統治」という内容です。

スライド2

まずこれは娘が通っていた某小学校周辺の地図です。私立の学校で車での送迎が大変多く、近隣から

渋滞で苦情が入ったり、店舗の駐車場に無断に止め



たりということで、近隣から大変嫌われておまして、屋外で行事をやればうるさいと苦情殺到でした。

A 地点に車をとめて児童を下す人が多くいたので渋滞が発生しやすく、B 地点は学校が雇っていた警備員が児童を誘導するために立っているの、余程のおかしな人しか児童を降ろさないのですが、いました。C 地点はバス停や消防署があるため、ここに送迎の車が並んでいる事で大変苦情が多かったのです。先生が言っていたのですが、スポーツカーのエンジンをふかせながらD地点の真ん中で子供を下ろして、歩道よりじゃないですよ、真ん中よりの車線で子供を下ろして、Uターンして家に帰る親がいる。

そんな近所迷惑、学校泣かせの保護者が多数でしたので先生と親との間もギクシャクした部分があり、ある時、急に学校が子供の携帯電話の所持禁止の通達を出してきました。児童にICタグを持たせて自動で登下校を保護者にメールで知らせる機能を校舎に取り付けたので電話は不要だという理屈です。学校の狙いはインターネットを使った児童間でのトラブルをなくす事です。

ところが殆どの児童の携帯は長期で電話会社と契約を交わしているの、猶予無しの携帯禁止は親と学校の大戦争になるというので、私当時、この学校のPTA 会長就任最初の仕事として学校と交渉して、携帯所持を逆転所持許可をもらってくるという使命でした。そこで出した内容は保護者に電話は元よりインターネットに関して教育を我々で行い、その教育を受けて誓約書にサインをした親元の児童だけ許可を持たせてほしいという事に妥協をしていただきました。幸い、我々の中には様々な学校でネットに関する教育を行っているメンバーがいたので彼に作成してもらい、抜け道が無く、法律上でも問題にならないよう弁護士メンバーにも見てもらって作り上げたの誓約書がこれです。

スライド3、4

正直、ここに書いてあることがわからない保護者は子供に携帯電話を持たせるのはリスクが大きいと言っても良いぐらい練りに練った内容です。携帯電話を持たせるために、保護者が義務を負ったという事です。車の送迎や携帯電話の保持で保護者が無法化すると学校は厳格な禁止というルールで統治をしなければならなくなる。だから携帯電話の自治を得るために義務を負ったのです。

この自治と統治という面で、私は組織論の書物ではなく、全く違ったところで考える機会に出会いました。

スライド5

これは今から 21 年前に開催された野外音楽フェスの会場です。初開催の時で主催者も参加者も完全なる準備不足な上に台風が直撃して、参加者は遭難直前、場内はゴミの山と化しました。その惨状です。

スライド6

これ数年後の同じイベントの開催中の会場内の写真です、雨が降った後ですのでカップ着た人や地面がぬかるんでいるのが見えますと思いますが、ゴミは有りません。

スライド7

ゴミの分別もしっかり表示されていますが、ここに至るまでは主催者側と参加者がどれだけ自由な空間を維持するために自発的な義務を負ってきたのか、その試行錯誤の歴史があります。

スライド8

会場はこの 20 年間は新潟で開催です。経済効果は数十億円と言われております。

スライド9

ここで最初の開催があった 20 年前、近隣からは煙たく思われ反対の声も多くあったのですが、ゴミが落ちていないどころか、会場外のゴミまでみんなが拾っていき、スキー客よりマナーが良いと言われ、今や街上げての一大行事になっています。

スライド10

海外有名誌が発表した音楽フェス格付けランキングで環境保全、参加者の譲り合いマナーといった点で高い評価を受けて世界第 3 位に位置付けられています。係員は会場の大きさを考えると全然いません。入ったら自分で責任を持つ。義務を負う、そのことで参加者は自由な空間を得るのです。

スライド11

次、現在、慣れによる参加者の緩みで若干のゴミが

見える会場です。場内で飲んだ飲み物が入ったペットボトルは回収され、翌年、ゴミ袋に再生され会場入り口で配布され、ゴミを持って帰ってくださいと言う無言のアナウンスです。もっともこのフェスの顔であった故：忌野清志郎さんがプリントされた袋は、みんな使わずに持って帰りました。

スライド12

2014 年には、商業イベントでは有り得ない、「チケットを買わないでください」という主催者からのメッセージです。

スライド13

テーマパークと真逆、おおよそ「おもてなし」などという感覚はゼロ、雨と泥と暑さと寒さにまみれて恐ろしく不便だけど、ここは一人一人の自由な空間、自分の楽しみ方をみつける空間があります。とはいえ有料でチケットが販売され多数の専門業者による運営ですので、どこか完全なる参加者の自主性とは言えなくなってきた側面は否定できません。

スライド14

参考までにこれはイギリスの音楽フェスの会場の写真です。鳥が残飯狙って飛来してきていますね。

この音楽フェスが産まれて根付いたことにより、当然その影響で様々なフォロワーが国内で産まれます。今や大小さまざまですが春から秋にかけて毎週どこかで開催されています。

スライド15

これはその中でも一番ラジカルなものです。参加費用は「投げ銭」です。

毎年、春に愛知県で開催される音楽祭です。完全に手弁当での運営です。参加者は、近所の家族連れから、おおよそ友人になるには勇気がいる見た目は怖そうな人までです。その「投げ銭」に関する主催者よりのアナウンスメントが素晴らしかったので紹介します。

スライド16

という事で、自分の居たい場所を作るには、やはり義務を負わないと、それも出来れば自主的な義務であれば、もっと快適な場所になる

という話でした。

アイリスロータリークラブも居心地の良い場所にするには、義務を果たすべきだ、特に出席率を、と藤谷会長も申しておりますので、みなさんご協力を。

(原文のまま掲載)